

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立高等学校】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・V（複数選択可） 【パラリンピック教育用教材の活用とパラスポーツ体験】
2 実施対象者 (学年・人数)	第2学年5・6組女子54名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①(教科名)(体育)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの特徴や発展について学び、興味を深める。 ・実際にパラリンピックスポーツを体験することによって、パラリンピックを身近に感じる。
5 取組内容	<p>(1)事前アンケート、事前学習（1時間）</p> <p>事前にオリンピック・パラリンピックについてのアンケート調査を行った。そして、国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」、スポーツ庁「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を活用し、オリンピック・パラリンピックについての意義や歴史などの基本知識を生徒達に理解させ、興味・関心を抱かせた。</p> <p>また、視覚障がい者マラソンの模似体験やゴールボール体験を通して、障がい者スポーツの理解や難しさを実感させた。</p> <p>(2)シッティングバレーボールの体験（3時間）</p> <p>1時間目は、シッティングバレーボール体験に入る前に試合映像を見せて、イメージをつけさせた後、基本体勢の練習や座っての移動練習、基本姿勢でのミニゲームを行った。</p> <p>2時間目からは、円陣パスを使って、基本体勢を守ることや動きづらい中で、いかに相手が取りやすいパスを渡せるかなどを意識させた。隊形は円陣だけでなく、ネットなしの対人でも行い、試合により近い形でさせた。</p>



3時間目では、対人でのパスが長く続く方法を、チームで考えたり工夫したりと試合に繋がる活動を行った。サービスやブロックの練習も行い、また試合の流れを確認するなどして、最後には簡易的な試合を行った。元のルールを基準として、プレーしながらやりやすいルールを取り入れた。



(3)事後アンケート

6 主な成果

事前と事後の2回「オリンピック・パラリンピックについて」のアンケート調査を実施した。その結果、授業を行う前と後では、次のような変化が見られた。

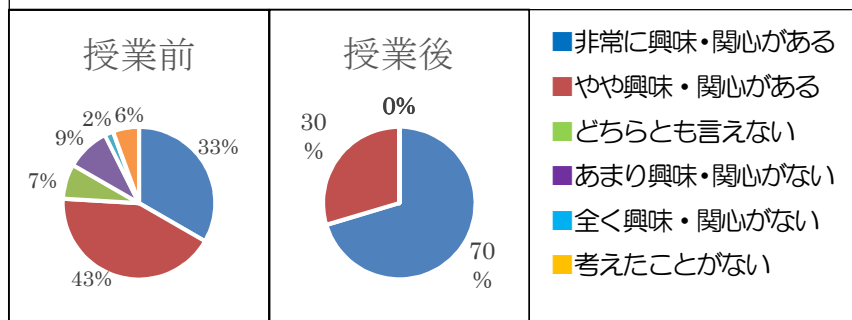
質問①

2020年の『東京オリンピック・パラリンピック』の開催について

非常に興味・関心がある	前33%⇒後70% (37%↑)
-------------	------------------

以下のグラフからわかるように、授業を行う前では、全体の24%の生徒が『東京オリンピック・パラリンピック』に興味なかったが、授業を行った後では0%になっている。(授業前の円グラフ：どちらとも言えない～考えたことがない 4項目の合計) パラスポーツを体験することによって、パラリンピック・オリンピックに関心なかった生徒が、「体験することで興味が出た」「体験するまでこんな競技があることを知らなかった」「テレビで観戦したい」「シッティングバレーボール以外のパラ種目にも注目してみたい」などと興味・関心がある感想が多かった。

2020年の『東京オリンピック・パラリンピック』の開催について



質問②

2020年の『東京オリンピック・パラリンピック』が楽しみか。

両方とも楽しみ	前48%⇒後89% (41%↑)
---------	------------------

授業後には、全体の約9割が『オリンピック・パラリンピックのどちらとも楽しみ』という回答になった。以下のグラフからわかるように、授業前では『オリンピックが楽しみ』という生徒は全体の35%を占めていた。感想では、「オリンピックは知っているも、パラリンピックは知らなかった」「テレビでよく見るのは、オリンピック種目ばかりだったので、オリンピックは楽しみだなと思っていた」「パラリンピックの存在は知っていても種目までは知らなかった」などが多かった。もともとオリンピックには関心があり、楽しみであったとみられる。しかし、授業でパラ種目を体験することによって、パラリンピックを身近に感じ、パラリンピックも含め、『両方とも楽しみ』という回答が増えた。

2020年の『東京オリンピック・パラリンピック』が楽しみか。	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>授業前</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>授業後</p> </div> <div style="font-size: small;"> <p>■両方楽しみ ■オリンピックが楽しみ ■パラリンピックが楽しみ ■どちらとも興味がない</p> </div> </div> <p>生徒が書いた感想文では、パラ種目の一つであるシッティングバレーボールに対して、授業前では「座ってバレーボールなんてできない」「楽しくなさそう」などの消極的な感想や「座ってやるから簡単そう」「楽にできそう」などの簡単にできるというイメージが多かった。しかし、授業後には、「予想以上に楽しかった」「もっとしたい」などの積極的な感想や「簡単だと思っていたけど、意外に難しい」とパラスポーツの大変さを感じたという感想に変わっていた。また、パラアスリートに対する尊敬の念やハンディーキャップがある中での苦労や厳しさを感じた生徒も多かった。</p> <p>全体を通して、授業後には、全員の生徒がオリンピック・パラリンピックに『興味・関心があり、両方とも楽しみ』であると答えた。その中で、授業前は『全く興味・関心もない、どちらも楽しみでない、テレビで見る予定もない』と消極的であった生徒の感想文には、「授業をするにつれて次の授業が待ち遠しく、楽しみだった。難しくても、それでも障がい者の方達も楽しくスポーツが出来るということが、何よりも嬉しい。もし、時間があればシッティングバレーボールやその他のスポーツも見て応援出来たらと思う。」とあった。</p> <p>この取り組みを通して、生徒たちが『東京 2020 オリンピック・パラリンピック』への興味・関心を持つことが出来た。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」、スポーツ庁「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」の活用 ○グループでの話し合い活動 ○授業形態 ○道具の工夫
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○レッスンバレーボールを使用したが、続けることや簡単さを考慮するならば、ソフトバレーボールを使用した方が良い。 ○バレーボールの授業に続き、シッティングバレーボールに繋がった方が、基本ルールや試合の流れなどがわかっているので、スムーズに授業展開ができると思う。 ○安全面及び機能性から考えて、膝よりも肘のサポーターの方が使いやすい。
9来年度以降の実施予定	保健や体育の授業内で、オリンピック・パラリンピックについて関連づけた話をしていく。

《参考資料》

〈一部感想文紹介〉

○シットイングバレーボールのルールも知らず、ただ難しそうだとしか思っていなかった。実際にやってみると、手を使わないとボールに近づくこともできなかったり、打つときにお尻が浮いてしまったりと予想を上回る難しさだった。いつもやるバレーボールよりみんなが平等な状態で出来たので面白かった。2020年のパラリンピックでは、体験した一人として、競技を見ることができると思うと楽しみ。

○頭の中では、右に行かないと、後ろに下がらないと…と分ってはいるが自分の体を思うように動かすことが出来なかった。予想以上に手だけで移動することの難しさを感じた。また、スポーツに一生懸命に取り組む姿勢や喜び、楽しさは変わらず共通しているのだと思った。

○全身を使ってボールを追い、レシーブをする楽しさやチームワークの大切さをより感じる事が出来た。これを機にパラリンピックにも注目してみたい。体験することができて良かった。

○私はバレーボール部なので、意外とできると思っていたが、実際にやってみると自分が思っていた以上に難しく、動くのに不便さを感じた。自分の体を手で移動させるのが全く上手くいかず苦戦をした。改めて、日々の生活で当たり前に行えることができない人達がいる、それがどんなに大変なのかを学ぶことが出来た。

○足が使えない分、足の速さや瞬発力が関係なくなるので、バレーボールよりも力の差がなくなり、とても楽しかった。

○パラリンピックを家族と一緒にテレビで観戦したい

○その中で、足が使えないことがどれだけ大変なのか、不自由さを感じさせず、バレーボールを行う選手たちの凄さを感じることができた。

○円陣で続いていたパスも、対人になったとたん、パスが続かないチームが多かった。